

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 野村 充)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『A』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山県に本店を置く資金量約1.3兆円の第二地方銀行。格付には、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、格付対比で高い収益力などを反映している。貸出金残高の増強に向け、有価証券評価益の一部を実現させ自己資本を積み増すなど、収益力の一段の強化および安定性を高めるための取り組みは着実に進捗している。実質的な資本水準を持続的に引き上げていけるかが、一段の信用力向上に向けたポイントである。
 - (2) 24/3期および25/3期上半期のコア業務純益(投資信託解約損益を除く、以下同じ)は過去最高となった。ROA(コア業務純益ベース)は0.6%超と、Aレンジの地域銀行の中でも高い水準にある。利回りの高い株式や外貨建債券からの利息配当金が大きく伸びていることに加え、事業性貸出の残高増加と利回り改善により貸出金利息も増加している。注力するフィージビネスでは、法人顧客の経営計画策定などにかかるソリューション関連手数料が着実に増加している。一方、預金利回りの上昇や経費の増加が先行しコア業務純益の下押し要因となる見込みである。中期的には運用サイドの利回り上昇により利益水準の回復が見込まれるが、その程度や時間軸を確認していく。
 - (3) 金融再生法開示債権比率は24年9月末で2.67%。コロナ禍や景況感の悪化などを背景に、債務者区分の引き下げが増加したことから従前に比べてやや高い水準にある。貸出金残高を積極的に積み増しており、与信費用の動向をフォローしていく必要がある。ただし、保守的な引き当てがなされていること、コア業務純益が堅調に推移していることなどを踏まえると、与信費用はコア業務純益で十分に吸収可能であろう。
 - (4) 有価証券ポートフォリオに占める、株式や投資信託、為替リスクを取った外貨建債券の構成比が高い。有価証券にかかるリスク量が資本対比でみて大きいことに留意が必要である。もともと、25/3期上半期に有価証券評価益の一部を実現させた後も、依然として厚い評価益を維持しており、有価証券にかかるリスクは管理可能な範囲内にあるとJCRはみている。
 - (5) 一般貸倒引当金などを調整後の連結コア資本比率は24年9月末で11%台後半と、Aレンジの地域銀行の中で上位にある。もともと、貸出金残高の増強に伴うリスクアセットの拡大に加え、バーゼルⅢ最終化の完全実施による影響が大きく、コア資本比率は今後低下する見込みである。内部留保の蓄積などにより、完全実施ベースのコア資本比率を持続的に向上させていけるか注目していく。

(担当) 大石 剛・阿知波 聖人

6. 格付据え置きについて
格付据え置きにつきましては、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部 : 大屋
電話 076-424-1219